ほどいてむすぶ

眠っている3,000本を、次の家へ。

古建具・古材を3Dデータにして、設計に載せ、施主に見せる。

松永設計

有限会社松永和廣設計事務所　担当：松永 達哉（一級建築士）
静岡市清水区下野西4番5号　054-367-4774



結論

3,000本の古建具を3Dデータにして、探せる・設計に載せられる状態にする。

自社の課題	古建具3,000本は、所長の記憶だけで管理している。探せないから設計の段階で決められず、工事中に目に入ったものから選ぶことになる。36年分の目利きも、所長ひとりの中にしかない。
解決	在庫を3Dスキャンでデータ化し、寸法・材種・由来で検索できるようにする。設計にそのまま載せ、施主にはCGで「わが家に入る姿」を見せる。
広がり	同じ課題を抱える工務店・古材事業者と分かち合う。解体で新たに出る材も同じ流れに乗せ、再利用によるCO2削減量を証明書として発行する。

実証の到達点（4か月）

300点
3Dデータ化する建具

5分以内
条件に合う材が見つかるまで

2件
実案件の設計に載せる

全点
CO2削減量を自動算出

本プログラムでお願いしたいこと

3Dスキャン・点群処理・Webビューア／ARを持つスタートアップとのマッチング。
実証（2026年11月〜2027年2月）での、在庫データ化と施主提示の試作。

「実家を壊すのは、つらい」——だから、預かってきた。

解体の現場で、何度もその言葉を聞いてきました。何代も使われてきた梁、職人が手でつくった建具。重機が入れば数日で廃棄物になります。

創業以来「一件でも多くの古民家を残す」と言い続け、活かしきれなかった材ももらい受けてきました。近年は解体業者からの購入やネットでの引き取りも加わり、その積み重ねが倉庫の3,000本です。

しかし、預かったまま眠らせているのでは、残したことになりません。

社是は「ほどいてむすぶ」。
ほどいたものを、次の家へむすび直すところまでが仕事です。



3,000本は、名もなき職人の手仕事の集積

無名の職人がつくった日用品にこそ美がある、という民藝の考え（用の美）

値段で序列をつけないのも同じ理由。希少性ではなく、使われ続けることに価値がある

静岡市は、民藝ゆかりの町

民藝運動に参加した染色家・芹沢銈介（人間国宝）は静岡市の生まれ

静岡市立芹沢銈介美術館に、作品約1,300点と世界の工芸コレクション約4,500点

民藝運動は各地の手仕事を記録して見せた。
私たちは測って記録し、次の家へ渡す。

3,000本は「探せない」から、使えない。

01 在庫が見えない

どこに何があるかは、所長の記憶だけ。寸法が合うかは、倉庫で現物を見るまで分からない

02 設計で決められない

見つかるか分からない材は、設計の初期段階で前提にできない。結果、工事中に目に入ったものから選ぶことになり、最適な材を選びきれない

03 目利きが属人化

どの材が生きるかの判断は、36年かけて所長ひとりの中に蓄積されたまま。会社の資産になっていない

04 現場で値が決められない

静岡県ではひと月に285戸が取り壊される。その場で「この材にいくらの価値があるか」を判断できる人が、社内にほとんどいない

背景にある社会の課題

52,700戸

静岡市の空き家（空き家率15.2%）

約8割

市が確認した空き家2,711件のうち旧耐震

285戸／月

静岡県で取り壊された住宅

96.2%

建設発生木材の再資源化・縮減率

出典：令和5年住宅・土地統計調査／静岡市空家等対策計画（R5.3）／建築物滅失統計調査（R8.5）／H30建設副産物実態調査

量のリサイクルは9割を超えている。
できていないのは、部材として次の家へ受け継ぐこと。

測って、探して、載せて、見せる。この4つをつなぐ。

1　測る

3Dスキャンで形状・寸法を取得。材種・状態・時代・つくられ方（手仕事か機械か）・どの家から来たかを属性として記録する

2　探す

「幅◯mm・欄間・松」といった条件で検索。倉庫に行かずに候補が出る

3　載せる

設計データにそのまま配置。納まりや寸法の調整を机上で検討できる

4　見せる

CG・ARで施主に提示。「実家の建具が、ここに入ります」を目で見せる

なぜ在庫のデータ化から始めるのか

現物が3,000本ある。4か月で必ず形になる

他社が同じものを作ろうにも、在庫がなければ始まらない

解体現場で新たに出る材も、同じ仕組みに登録すればよい

データが貯まれば、将来「どの材が生きるか」の判定にも使える

古材が循環する形

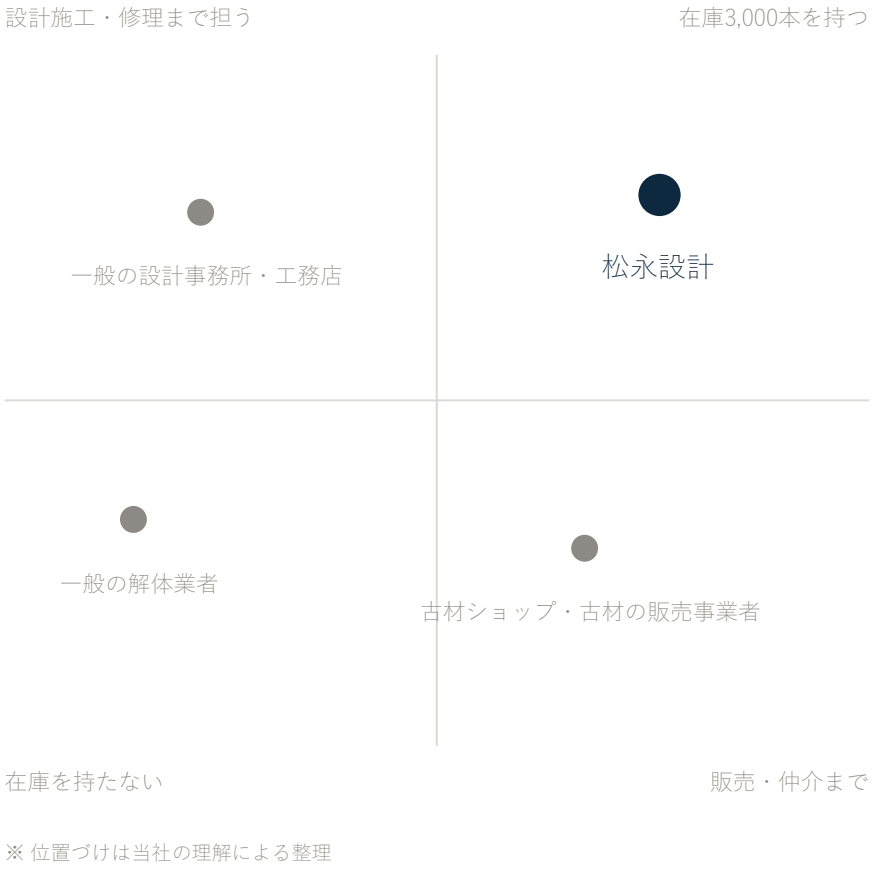
解体	継承解体で材を受け取る
登録	3Dデータ化して在庫に加える
提案	設計に載せ、施主に見せる
再生	焼津の工場で修理し、次の家へ

解体から再生までを自社で持つから、この循環が閉じる。

3,000本の現物と、解体から再生までの一貫体制。両方持つ会社は他にない。

現物	古建具 約3,000本・古材の在庫（清水区の自社倉庫）＝データ化の対象そのもの
判断の基準	古民家再生180棟・36年。100棟目の冨田家住宅は登録有形文化財
手	設計者と建具職人を自社に持つ（2024年 焼津に建具・家具工場を開設）。大工・左官などは協力会社と組む
出口と入口	設計施工で使い切れる／不動産売買仲介（2021年開始）で実家じまいの相談が入る

在庫だけ、技術だけ、では成立しない。両方あるから、データが価値になる。



※ 位置づけは当社の理解による整理

4か月で300点をデータ化し、実際の設計に載せて施主に見せる。

11月 測る

建具300点をスキャン。寸法・材種・状態・由来を属性として登録

12月 探せるようにする

検索とビューアを試作。設計データへの書き出しを確認

1月 実案件で使う

進行中の2案件の設計に古材を載せ、施主にCGで提示

2月 測って開く

CO2削減量の自動算出を実装。倉庫の見学会を1回開催

実証にかかる費用（協業先の決定後に確定）

スキャン機材の賃借／データ整備の委託／検索・ビューアの試作委託／消耗品。
補助金の活用を想定。当社は職人と設計者の工数を投入する（人件費は補助対象外のため自社負担）。

確かめる指標

データ化した点数 属性まで入った建具	300点
探す速さ 条件に合う材が見つかるまで	5分以内
設計への反映 古材を載せて提案した実案件	2件
施主の反応 提示後に古材採用へ進んだ件数	1件以上
環境価値 CO2削減量を算出できた材	全点

外部の声は、実証の中で集める

実案件2件の施主と、見学会の参加者から直接反応を得る。



倉庫の3,000本は、すべて誰かの家にあったものです。

預かったままにしない。
ほどいたものを、次の家へむすぶ。

松永設計

ただ解体するのではなく、生かしたいと思う人へ。
泣く泣く手放す建具を、次の世代へ渡す架け橋になりたい。

有限会社松永和廣設計事務所　担当：松永 達哉　054-367-4774